

西神ニュータウン研究会 会報

第236号 2024年3月

■第236回例会記録

- ・日時 2024年2月29日(木) 18:00~20:00
- ・場所 西区役所 地域活動支援コーナー ・参加27名
- ・テーマ 「都市と農村の交流活動の推進
～人口減少社会における農村地域の
活性化に向けて～」
- ・発表者 亀田 道晴 氏
(西区役所伊川谷出張所地域活性化担当係長)
鶴田 喜久 氏 (伊川谷オフラインサロン代表)



■都市と農村の交流活動の推進

- ・農村地域の活性化のため、農村が抱える課題を都市部住民への非日常体験に転嫁して提供しようと、遊休農地の再生や放置竹林の整備活動を都市と農村双方の住民と協働して取り組んできました。
- ・伊川谷の農村地域はニュータウンに囲まれ、また区内6大学とも近接している稀有な立地であり、高いポテンシャルを秘めていると考えています。
- ・都市住民に加え、区内6大学の学生を農村に誘導できないか奮闘中。学生が農村に気軽に足を運べる関係性を構築し、学生ならではの視点で新たな魅力発見や情報発信などによりこれまでの取組を加速させたい。
- ・まだまだ目標の途上ではありますが、これまでの活動について紹介します。

取組事例③ 里山の整備

- ・整備不全の里山を整備し、間伐材を薪として活用
- ・薪づくりのため新割り体験会を兼ねた手作り窯でのピザパーティーイベントを実施

<非日常体験>



取組事例① 耕作放棄地の再生

- ・耕作放棄地を市街地住民の農業体験の場として再生し、さつまいも・大根を栽培
- ・収穫だけでなく、草刈りや苗植え、栽培管理などのリアルな農作業を体験する場に
- ・月1回、1~2時間程度のカリキュラムとするなど、疲れさせない、飽きさせない工夫
- ・11月の収穫祭では焼き芋や新米のおにぎりを堪能

<非日常体験>



取組事例② 放置竹林の整備

- ・薪割力が強く、放置すると獣害や土砂災害を誘引する竹林を市街地住民と協働で整備
- ・竹をのこぎりで間伐し、鉋で削って煙やしての炭づくりを体験
- ・炭づくりをしながら熟考として活用し歴史などを顕現

<非日常体験>



おまけの活動

- ・そうめん流し・つるかご作り・テントサウナ



■伊川谷オフラインサロンとは

みんなの『やってみたい』を叶え、
農村に新しい風を吹かせる場所

・オフラインサロンは、学生や市民が農園でやりたいことを農家が支援して実現し、農家はその過程で自分たちの視点からのアイデアを得ることで、農家の発展を目指すグループです。



GWに行ったイベントでは40名以上が参加メンバーで参加した農家で農に関わる様々な企画やイベントを開催

- ▶神戸市西区伊川谷町を拠点にする農コミュニティ
- ▶神戸市芦屋区 伊川谷駅徒歩10分
- ▶10~70代まで幅広い年齢層のメンバー
- ▶メンバーの多くが農業未経験者
- ▶農業をしたくて参加したメンバーもいれば定期的に開催している焚火会等の交流活動が目的で足を運ぶメンバーも多い
- ▶参加資格や活動の義務はなく、各時の関心に基づいて自由な活動を行う

- ・様々な活動の中で、昨年はマリスタ学園と行った「ポテトプロジェクト」という活動が、ボランティアスピリットアワード全国賞を受賞しました。
- ・農家だけでは、農業は維持できません。農家と市民の交流により、農村にイノベーションが起きるよう、日々活動しています。

1 農に関わるきっかけづくり

季節毎にイベントを開催
午時・社別・総務関係・農家が居るれば近づく機会あり
(年々80名以上の参加)

開催したイベント

- ・夜更し大焚火会
- ・慶生会
- ・収穫祭(夏・冬)
- ・ハロウィンかぼちゃづくり
- ・ツナゲル農園プロジェクト
- ・神戸学芸大学との共同プロジェクト
- ・ポテトプロジェクト
- ・マリスタ学園学校との共同プロジェクト

1 農に関わるきっかけづくり

神戸学芸大学×マリスタ国際学校
ポテトプロジェクト
2023年ボランティアスピリットアワード全国賞受賞

2 半農を実践できる場所づくり

農業に触れられる機会・場所づくり

アルバイトとしてメンバーに農作業を行ってもらう
農業施設内の畑で実際に栽培を行う
収穫した農作物を販売する販売会をつくる
等、それぞれのペースで半農ができる体制を構築

3 各々のスキルを発揮できる仕組みづくり

様々な本職を行ったメンバーが農業することで
今まではやりたくてもできなかったことが出来るようになる
関わる全てのメンバーがスキルを発揮できる

ウェブ関連の仕事を行っているメンバーの割合で
HPやロゴマークを製作

□意見交換

- ・赤字が大問題。政治の問題でもある。ネットを使う経営などの改善もあるようだが。
←現在、スタッフ 38 人。今後、増やしバランスが取れるよう頑張りたい。(鶴田)
- ・新規参入者、5年以内でやめる人多い。集落の活性化もあり、持続してほしい。
←コアスタッフ 300 人まで増やし、持続させたい。又、自然塾など、情緒教育なども力入れたい。(鶴田)
- ・もうかる農業が大事。 ←農業者ある意味公務員だと理解。農家だけではダメで、農家×市民の新たなイノベーションが必要。モデルケースになりたい。(鶴田)
- ・NT と農村がすぐ近く。様々な交流、連携が可能。いろんなイノベーションに NT を巻き込んでほしい。

文責 橋本

西神ニュータウン研究会

〒651-2103 神戸市西区学園西町 1-1-1 UNITY内

TEL : 078-794-4970 FAX : 078-794-4910

<http://seishin-ntken.net>